

研究開発学校 H28年度指定
研究テーマ 「学びの総合化」を通じた 課題探究力・社会参画力等の育成

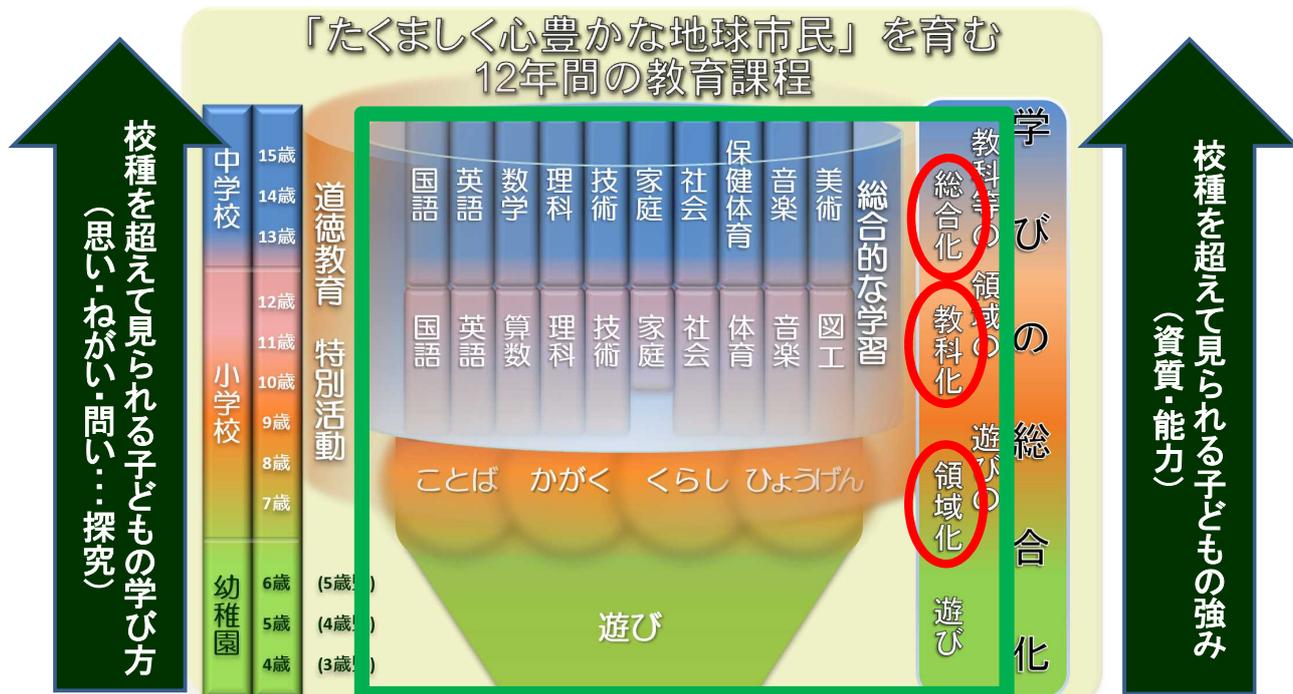
「未来を拓く 学校づくり」



信州大学教育学部附属松本中学校 副校長 宮下 哲
同 教諭(研究主任) 荻原 拓
信州大学教育学部附属幼稚園教諭(研究主任) 大日方政之

「未来を拓く 学校づくり」

研究テーマ
「学びの総合化」を通じた 課題探究力・社会参画力等の育成



本日お話しすること

学びの総合化 その必要感

1) 校種を超えて共有できるビジョンの存在

2) 内在する「子どものよさ」をとらえて育てる営み

- ① 子どもの思い・問い・ねがい...に発し、その質の変容を促す授業づくり
- ② 子どもがはたらかせている見方や考え方を顕在化させる支援へ
- ③ そのような営みを評価するために...その方向性

学びの総合化 その必要感

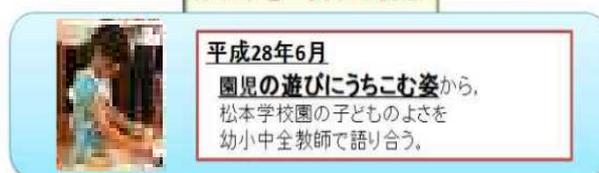
1) 校種を超えて共有できるビジョンの存在

附属松本小学校園の子どもに顕著に見られる三つのよさ

自己表現力・課題探究力・社会参画力



幼小中を一貫する視点



本小学校園の子どもに見られる三つのよさ

≡ 校種を超えて教職員が育てたいと思っ
ている資質・能力の要素

- ・**自己表現する力**: 観て、聴いて、感じたことを自分らしく表現しようとする
- ・**課題探究する力**: 自分なりの問いや願いをもち、粘り強く対象に働きかけ続け、物事の本質を見極めようとする
- ・**社会参画する力**: 多様な価値観をもつ他者と、共通の目的のために協働したり、新たな見方や考え方を創造することを楽しんだりする

日常的に、校種を超えて、同じ授業を参観し語り合う
互いの実践を語り合う

「遊びにうちこんでいる」姿は、問題解決の過程としても把握することができる。



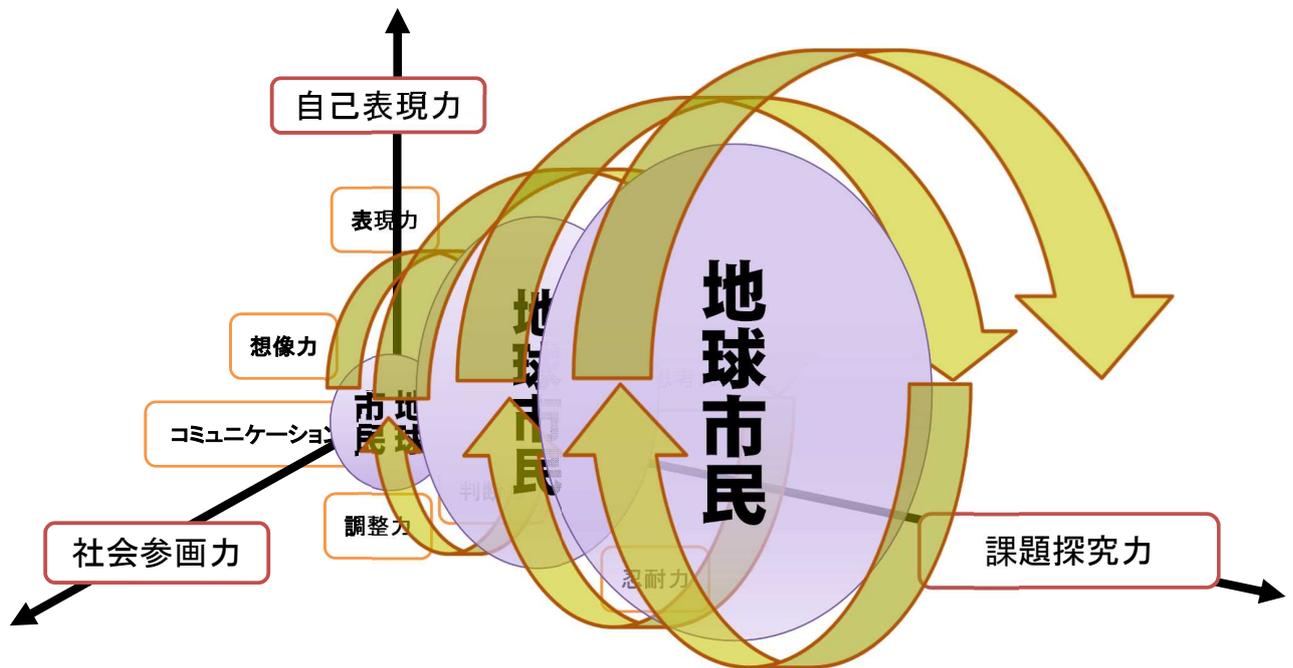
買い物の仕組みやレジスターの形などを把握し合って楽しんでいる。

色水をジュースに見立て、容積や重さをもとに値段をつけようとしている。



学びの総合化 その必要感

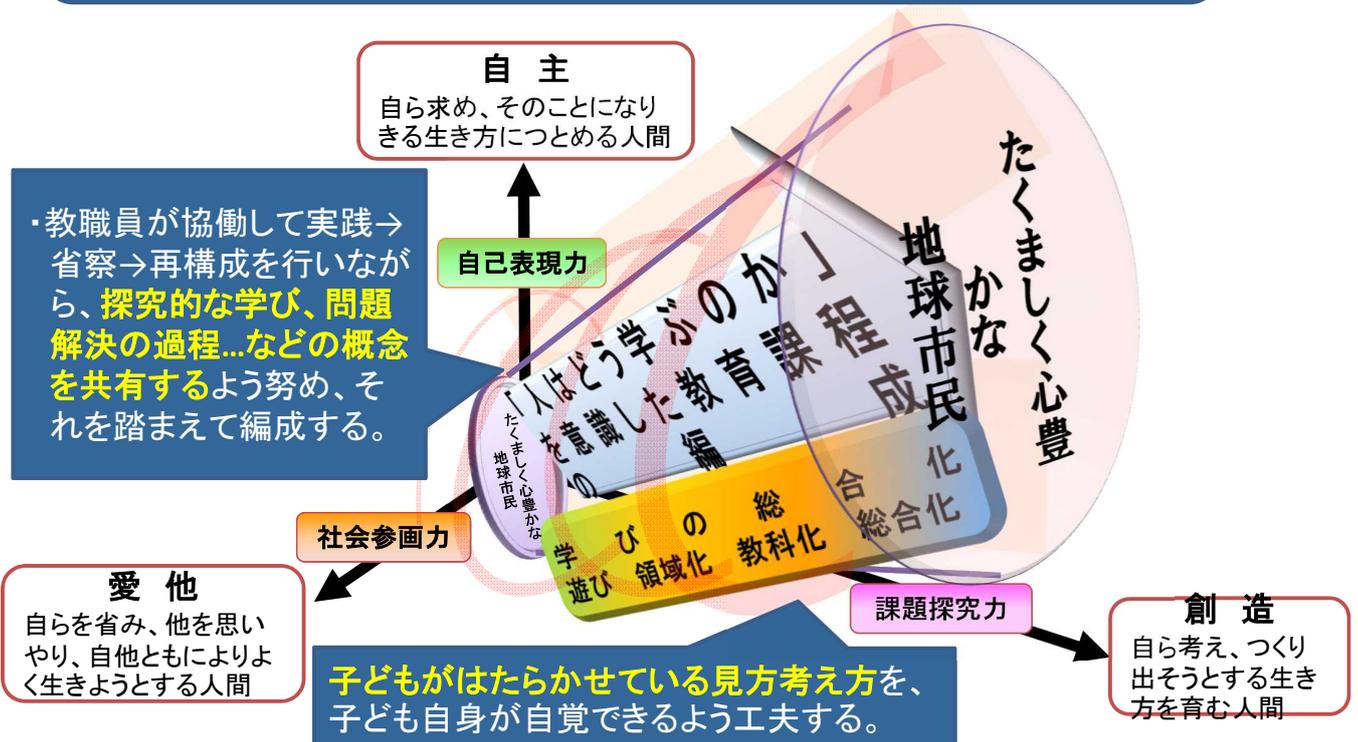
- 1) 校種を超えて共有できるビジョンの存在
- 2) 内在する「子どものよさ」をとらえて育てる営み



学習活動を通して資質・能力を培うとは何をすることなのか 松木健一
信濃教育第1580 信濃教育会2018年7月 を改編

学びの総合化 その必要感

- 1) 校種を超えて共有できるビジョンの存在
- 2) 内在する「子どものよさ」をとらえて育てる営み

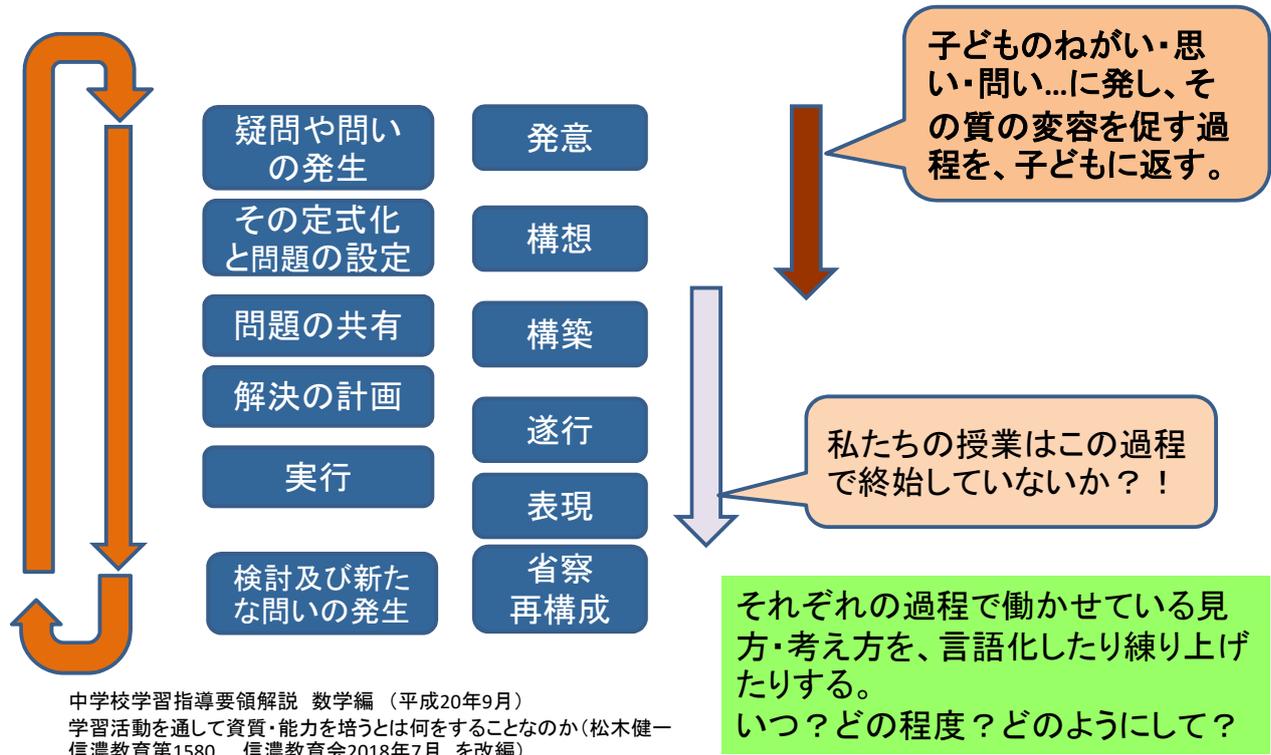


学習活動を通して資質・能力を培うとは何をすることなのか 松木健一
信濃教育第1580 信濃教育会2018年7月 を改編

学びの総合化 その必要感

2) 内在する「子どものよさ」をとらえて育てる営み

① 子どもの思い・ねがい・問い...に発し、その質の変容を促す授業づくり



学びの総合化 その必要感

2) 内在する「子どものよさ」をとらえて育てる営み

① 子どもの思い・ねがい・問い...に発し、その質の変容を促す授業づくり

幼・小・中の教員が合同で事例研究を繰り返す

- ・実践→省察→ 再構成を繰り返す。
- ・教職員が協働して、**探究的な学び、問題解決の過程...などの概念を共有**するよう努める。



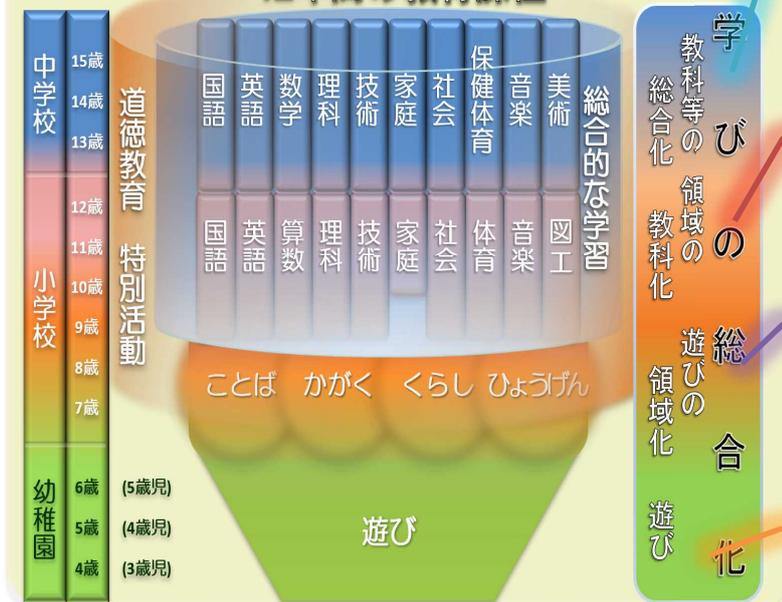
- ・問題解決の過程で子どもがはたらかせている見方・考え方を、子ども自身が自覚できるようにしながら、思考力・判断力・表現力等を養うとともに知識・技能の定着を図るための支援の在り方を考え合う。

学びの総合化 その必要感

2) 内在する「子どものよさ」をとらえて育てる営み

- ① 子どもの思い・ねがい・問い...に発し、その質の変容を促す授業づくり
- ② 子どもがはたらかせている見方や考え方を顕在化させる支援

「たくましく心豊かな地球市民」を育む
12年間の教育課程



- ・探究、問題解決の過程
- ・見方・考え方をはたらかせる概念を把握すると共に、「観」を多面的・多角的に検討し、教科内及び教科等の学びを総合化する

- ・探究、問題解決の過程
- ・見方・考え方をはたらかせる
- ・「感」から「観」へ ...概念を把握する

- ・探究、問題解決の過程
- ・見方・考え方をはたらかせる
- ・もの、ひと、ことにはたらきかけることを通して得た「感」を多面的・多角的に味わう

遊びにうちこむ

- ・ねがい、問い、思い...をかけて取り組む楽しさを味わう

学びの総合化 その必要感

2) 内在する「子どものよさ」をとらえて育てる営み

- ③ そのような営みを評価するために...その方向性



○資質・能力表を作成してみて見えてきたこと。

- ・資質能力表を作成することで、視点が明確になる。しかし、教科セクトになりがちで、一度設定するとその視点に縛られる傾向が強くなる。
- ・個別の事例については活用できても、他の場面や単元・題材では適用できず汎用性がない。汎用性を高めようとすると、概括的で抽象的な表現になってしまう。
- ・資質・能力の他の要素について検討できない。各要素は関連しているため、枠を設定すると表現できないことがある。
- ・教科等の評価は学習指導要領や指導要録の観点による。そのことと資質・能力表との整合を図ることは難がある。

- 児童・生徒の育ちを数値化できないか
- 評価と評定のかかわりを明らかにできないか
- ・小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き (文部科学省H28.12.26)
- ・小中連携による学力向上地域支援事業 (長野県教育委員会H20・21)
- ・福井大学教職大学院長期実践報告書 (静岡県富士市立高等学校 眺野氏の実践)